

皆さまの医療費の状況をお知らせします！



共済組合では、「データヘルス計画」および「医療費適正化対策事業」の一環として、令和3年度および令和4年8月分のレセプト（診療報酬明細書）をもとに医療費の統計を行いました。

どのような病気で医療機関にかかっているのか、1人当たりどれくらいの医療費が使われているのか、年齢によってどのような疾病が多いのかなどの目安になります。

なお、組合員の皆さまには、年2回の医療費通知を行っております。日頃から医療費への関心を持っていただくことが、皆さまの健康と健全な医療保険制度の運営につながります。

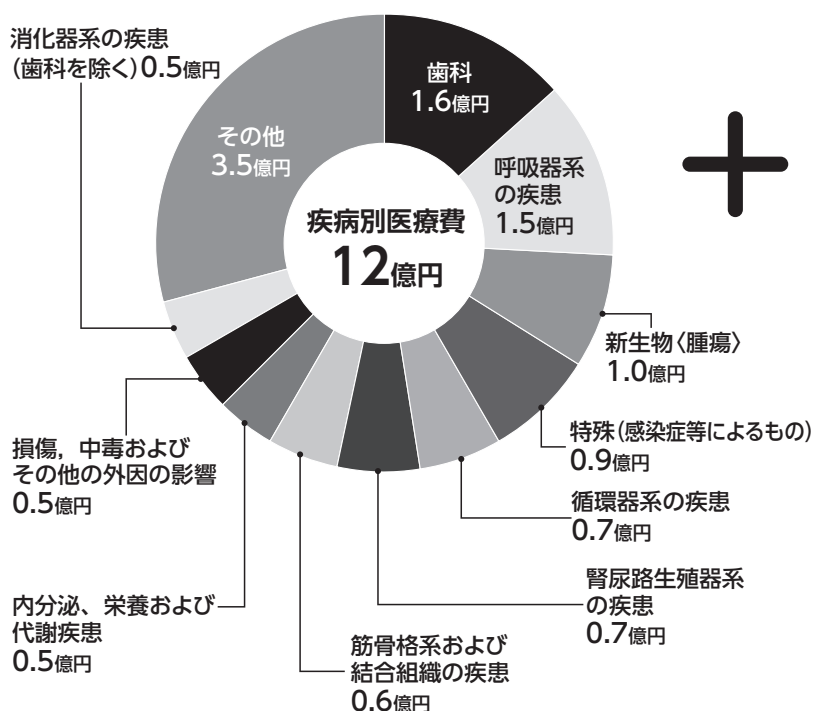
医療費トップは歯科疾患！！

令和4年8月の医療費に注目してみました。1カ月の医療費を疾病分類別にみると、「歯科疾患」が全体の13%を占め1位となっています。そのうち、およそ8割を慢性歯周炎・慢性歯肉炎が占めています。このグラフから、生活習慣を見直すことで予防可能な疾病が上位を占めていることがわかります。

また、薬剤費は昨年よりも増加傾向にあり約3.1億円となっています。この薬剤費のうちジェネリック医薬品の利用は約49%です。

早期発見、重症化予防のために健康診断は定期的に受けましょう。健康診断で異常が見つかった場合は、放置せず必ず医療機関を受診しましょう。

令和4年8月の疾病分類別医療費と薬剤費



+

薬剤費
3.1 億円



ジェネリック医薬品への切り替えにご協力をお願いします！

ジェネリック医薬品に切り替えると、皆さまのお薬代を減らすとともに、共済組合全体の医療費を抑えることができ、最終的には組合員の皆さまからお預かりする掛金の上昇を抑えることにつながります。

メタボリックシンドロームについて知ろう!

●メタボとはどんな状態?●

メタボとは内臓脂肪型肥満をベースに、脂質異常・高血糖・血圧高値の中の2つ以上がある状態をいいます。たとえ、それぞれの異常が軽くまだ病気ではなくても、異常が重なることで動脈硬化が進み、心筋梗塞や脳卒中といった命に関わる病気につながります。メタボの診断基準は、病気になる前のリスクを見つけ、予防するために設けられた基準なのです。

メタボの診断基準

▲に加え、①～③のうち2つ以上にあてはまるとメタボ、1つならメタボ予備群と診断されます。

▲腹囲

男性 85cm 以上 女性 90cm 以上

(内臓脂肪面積100cm²に相当)



①血清脂質

中性脂肪値 150mg/dℓ以上
HDL コレステロール値
40mg/dℓ未満
の両方またはいずれか

②血圧

収縮期血圧 130mmHg 以上
拡張期血圧 85mmHg 以上
の両方またはいずれか

③空腹時血糖

110mg/dℓ以上
※特定健診ではメタボの早期発見のため、
基準値は下記に設定されています。
・空腹時血糖値が100mg/dℓ、または
HbA1c が5.6%

(メタボリックシンドローム診断基準検討委員会 2005年)

●メタボを放置すると大きな病気につながります●

内臓脂肪の蓄積は、血清脂質や血圧、血糖の異常を呼び、相互に作用して動脈硬化が急速に進行し、心筋梗塞や脳卒中などの深刻な病気を招くこととなります。

内分泌・代謝疾患の受診状況をチェック!

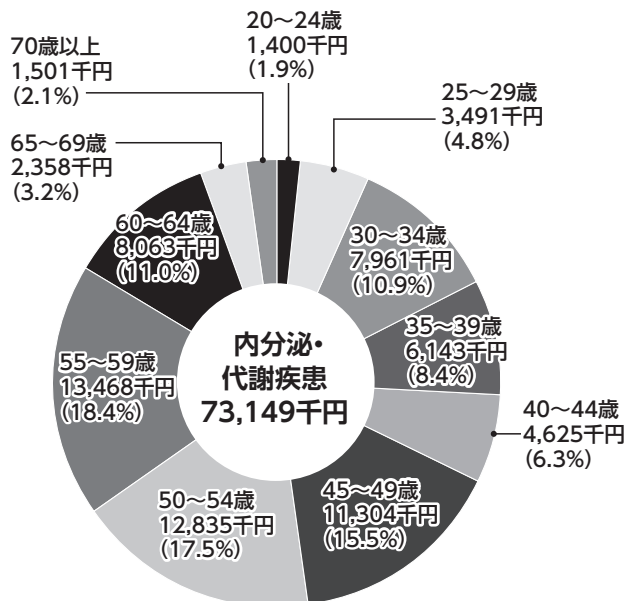
内分泌・代謝疾患と聞いてもあまりピンと来ないかも知れませんが、生活習慣病でお馴染みの糖尿病や脂質異常症、メタボリックシンドロームがこれに分類されます。

令和4年8月の内分泌・代謝疾患の医療費について、年齢階層別でランキングすると、下記のグラフの結果となり、罹患患者数は30代から徐々に増え始め、50代前半になると、なんと40代前半の約2.7倍も増えています。

1人当たりの医療費を見ると、全世代をとおして高額であることがわかります。

この中でも糖尿病は、重症化してしまうと厳しい食事制限に加え、長期にわたリインスリン注射や、透析をしなければならなくなります。毎月の医療費が膨大になるのはもちろんのこと、治療のために貴重な時間や人生の楽しみも奪われかねません。好きなことを楽しめるよう日頃の生活習慣にも意識を向けて健康な毎日を送りたいですね。

内分泌・代謝疾患の年齢階層別の医療費と構成割合



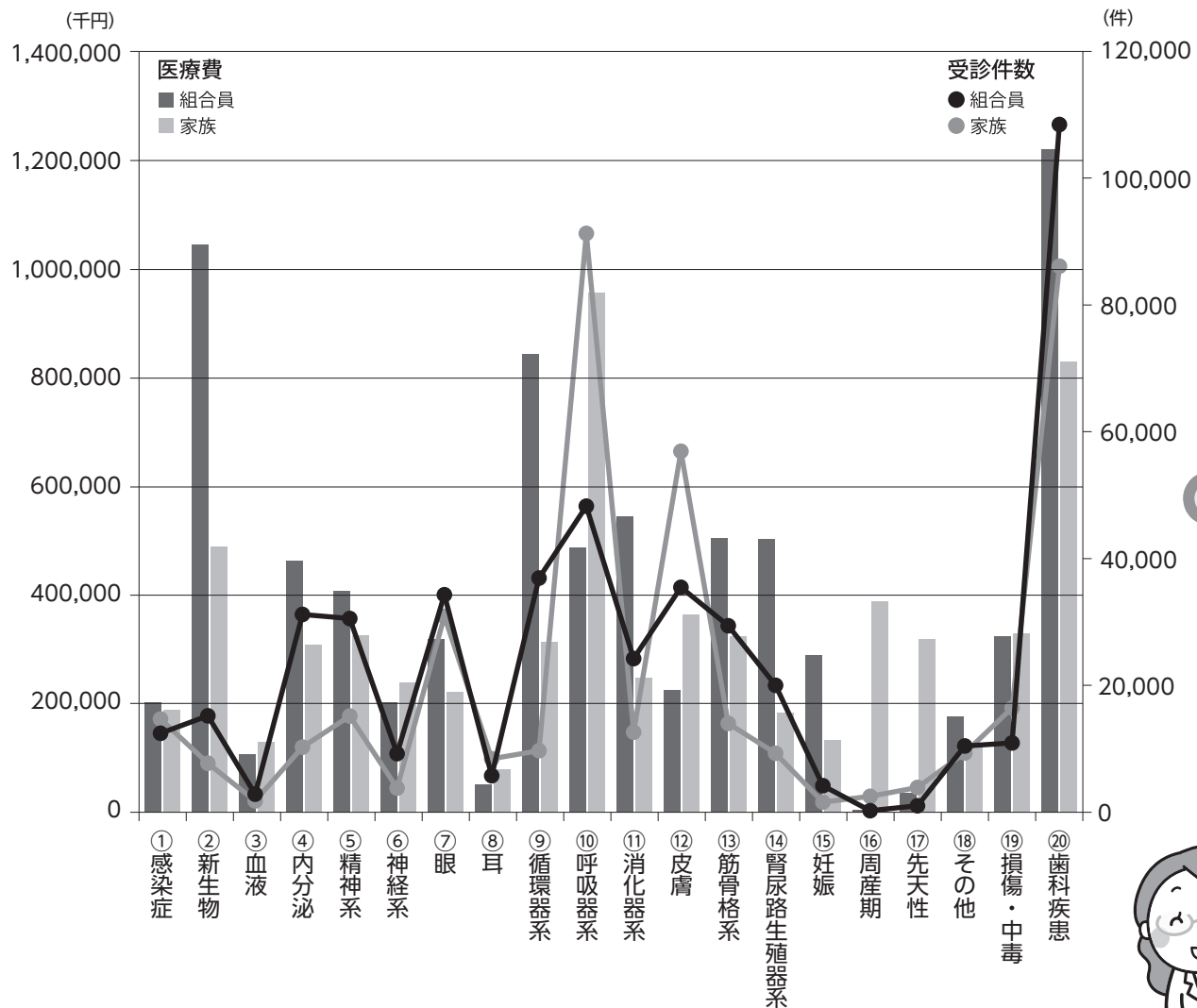
内分泌・代謝疾患の1人当たりの医療費

年度 年齢区分	罹患数(件)	1人当たり 医療費総額(円)
20~24歳	83	16,873
25~29歳	132	26,450
30~34歳	201	39,609
35~39歳	192	31,994
40~44歳	222	20,831
45~49歳	406	27,841
50~54歳	613	20,938
55~59歳	599	22,484
60~64歳	406	19,860
65~69歳	103	22,893
70歳以上	68	22,079
合計	3,025	271,852

令和3年度の医療費と件数を疾病分類別にみると

組合員と家族を合わせた合計の件数は「歯科疾患」と「呼吸器系の疾患」が顕著に多く、医療費では「歯科疾患」がトップで、「新生物」、「循環器系の疾患」、「呼吸器系の疾患」と続きます。

組合員で見ると「歯科疾患」、「新生物」の医療費が多いことがわかります。家族では「呼吸器系の疾患」の医療費が最も多い金額となっており、続いて「歯科疾患」が多くなっています。「歯科疾患」は、組合員と家族ともに件数も医療費も多いことがわかります。



さらに年齢階層別に詳しく分析すると…



項目	主な傷病名
① 感染症	結核、ウイルス肝炎
② 新生物	腫瘍、白血病、がん
③ 血液	貧血
④ 内分泌	糖尿病、脂質異常症
⑤ 精神系	うつ病、統合失調症
⑥ 神経系	パーキンソン病、てんかん
⑦ 眼	結膜炎、白内障
⑧ 耳	外耳炎、メニエール病
⑨ 循環器系	高血圧症、脳梗塞
⑩ 呼吸器系	かぜ、アレルギー性鼻炎

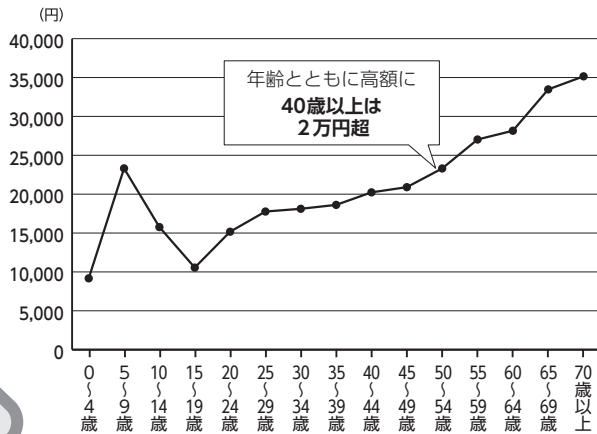
項目	主な傷病名
⑪ 消化器系	胃炎、肝炎
⑫ 皮膚	湿疹、にきび
⑬ 筋骨格系	関節症、腰痛
⑭ 腎尿路生殖生殖器系	腎不全、尿路結石症
⑮ 妊娠	流産、切迫早産
⑯ 周産期	胎児発育の障害
⑰ 先天性	染色体異常
⑱ その他	ほかに分類されないもの
⑲ 損傷・中毒	骨折、やけど
⑳ 歯科疾患	むし歯、歯周病

1人当たりの医療費を疾病分類別にみると

$$\text{1人当たりの医療費} = \frac{\text{疾病分類ごとの総医療費}}{\text{平均組合員数} + \text{平均被扶養者数}}$$

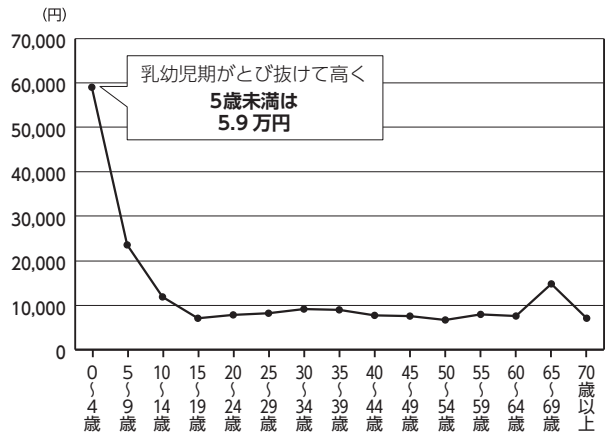
歯科疾患

むし歯、歯周病など歯の疾患では、5～9歳が2万3,320円と高く、また、15歳以降は年齢を重ねるごとに高くなる傾向にあります。



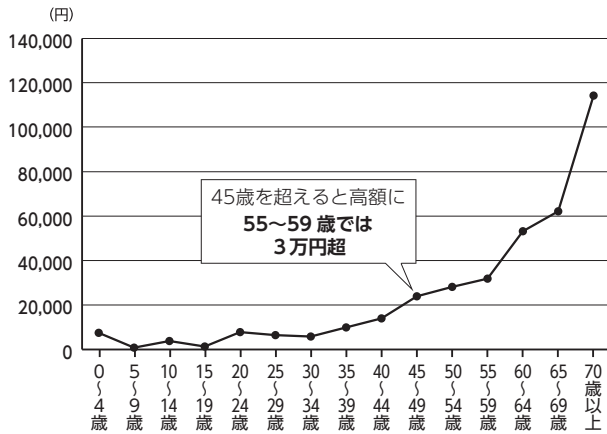
呼吸器系

かぜ、アレルギー性鼻炎、喘息等を含む呼吸器系の疾患では0～9歳までが全年齢層の中でも特に高く、他の年齢層では一部高い年代もありますが、15歳以上からはほぼ横ばいの傾向にあります。



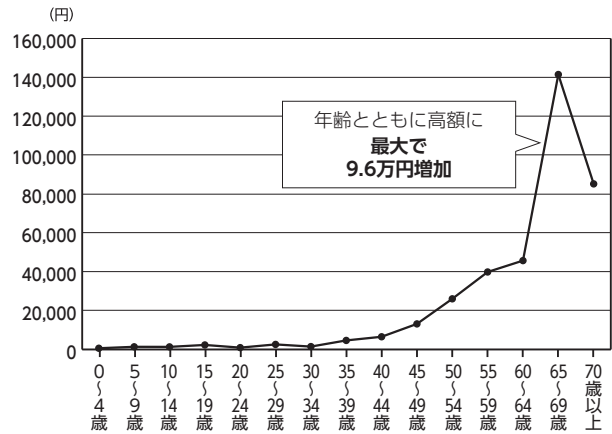
新生物

乳がん、胃がん、肺がんなど主にがんの疾患で、35歳からは年齢とともに徐々に高くなり、65～69歳は6.2万円、70歳以上では11.4万円と、とび抜けて高くなっています。



循環器系

循環器系の疾患では狭心症などを含む心疾患や脳内出血などの脳疾患が多くみられ、30～34歳まではほぼ横ばいですが、35歳以上からは年齢とともに増加していく傾向にあります。



これまでの統計・分析から、30代から年齢を重ねるごとに高血圧やがんなどの生活習慣病関連の医療費が多くなっていくことがわかります。一方で、むし歯やかぜなど普段からかかりやすい疾患は乳幼児期や50歳以上の方に医療費が高くなっています。これら身近な病気は、毎日の歯磨きやうがい、手洗いなどで予防することができます。

生活習慣全般から起こる様々な体のトラブルが原因の疾患が30代を境に受診者数が増加しており、医療費も高額になります。年に一度は必ず健診を受け、食事や飲酒など日頃の生活習慣を見直し、禁煙や運動を意識的に日常に取り入れるなど、日々のちょっとした行動を習慣づけて家族みんなで健康的な暮らしを実現しましょう。